

5.

白壁の街「柳井」・本四架橋のモデル 大島大橋・由宇温泉へ



山口から神戸への帰りに「由宇 ゆう」の名前に惹かれて「由宇温泉」へ寄ろうと家内がゆう。また、友達と縁のある「柳井」の街へも行ってみたいという。

山陽道を西から東へ山口県を走って徳山を抜けたあたりの山間のトンネルの入り口の上に大きく「由宇温泉」の看板がかかっている。「ラドンを含んだ静かな山間の温泉郷……」 いつも見上げる看板。

ぼくもこの名前 印象強く どんな所かと興味津津の場所。

「柳井」も以前 美祢で仕事している時、何度か「さび・エッチング」で教えを請いに通ったK先生の会社がある。

当時 街は人も少なく、本当にさびれた街との印象が強かったが、最近は「白壁 土蔵造りの家並が美しい街」「金魚提灯が軒先にひるかえる街」として観光地として売り出し中。どう 変わったのだろう。

「柳井」から海岸沿いを走ればすぐ大島大橋 流れの速い瀬戸の橋脚として本四架橋の多柱基礎が試されたモデル橋。そして 私のところの高張力鋼板が大量に使われたトラス橋でもある。

家内の興味とぼくの興味と会うのはほんととまたとないチャンス。 すぐに Agree 。少し美祢を早く出て、山口県の東部瀬戸内海側に寄って帰ることにしました。

白壁の街 柳井



近年、こうゆう古めかしい場所が だんだん亡くなっている。
世に有名なのは伊豆の下田と備中の倉敷だが、
ここにもそれにまけないような土蔵造りの家がならんでいる。』

市役所前の観光客用駐車場にある松本清張の文学碑に刻まれた文である。

本当に街の中 街も人の印象もすっかり変わっていました。

十年程前 「古い家並の街」と紹介されている「柳井」を歩こうと駅前から歩き出したのですが、ひとけ乏しい通りの入り口に金魚提灯が一つ風にさびしくゆれ、「もう手入れをしなければ……朽ち果てそう。」

と断片的に残る土蔵造りの家並みを歩いたのとはえらい違い。 金魚提灯も この街の象徴とは知らず、うらぶれた街の象徴みたいに記憶に残っている。

今度 柳井へ行ってビックリ。 綺麗な街と車の通りが多くなって活気が戻っている。

土蔵造りの家並みが整然とならび、通りの道も丁寧に散歩道として舗装手入れされ、本当に見違えてしまいました。



昔雑然としていた土蔵造りの町並は美しく整備され、すっかり観光地になって 古き明治の町並みの中にタイムスリップしてしまった心地。

これで、人が多くなってかつての賑わいを取り戻せばいいのですが・・・・・・・・

どこへ行っても人であふれている関東から見ると 本当に静かでゆったりした気分になれる落ち着いた街になっていました。

「この通りも ちゃんと整備される前は さびれて 本当に家並みも ボロボロで 人に見てもらうなんて・・・」とこの街屋の店の人が言ってましたが、街がきれいになって 町全体が整然と整備され、車も多くなり 人も街も明るくなったように感じました。



もう以前とは全く違ったイメージが膨らんでいます。

軒先の金魚ちょうちんも夜 灯が入れば 美しいだろうなあ・・・・・・・・

一度は 金魚提灯祭りの夜 灯が入った時に訪れたいもの。

柳井の町に工場と研究所を構え 色々教を請うたK先生 今度は是非お訪ねしたいもの・・・・・・・・

家内も 美しい街に「友達にも 話ができる」と喜んでいます。

美しくなった柳井に気分も楽になって 大島へ海岸沿いを走りました。



本四架橋のモデル橋 全長 1020m の大島大橋

「流れの速い瀬戸に立ち向かって 流れを変えない大型橋脚をどう建設するか??？」が本四架橋の大きな課題となり、多くのアイデアの中から 多柱基礎が選ばれ、そのモデル橋として作られたのが、この大島大橋。

研究所にいる時に何度となく耳にした「多柱基礎」そして「大島大橋用の高溶接性高張力鋼板」。材料屋としては 一度は見ておきたい橋でした。

柳井の港へ出て 海沿いに約 15 分ほど東に走ると狭い海峡に長い大きな橋が見えてくる。大島大橋である。

天空へそびえる橋塔がないいわゆる橋脚に橋桁が渡されたトラス橋で派手さはないが、海峡そのものをすっきりとまたいで美しい。海峡を横切る細い水色のトラスが海に良く映え美しい。

大阪 南港大橋もまたトラス橋の本四架橋のモデル橋であるが、鉄道・道路併設橋である

南港大橋がゴツゴツした巨大橋なのに比して実にすっきりしている。

JR 大島駅のところから橋に向かって高台に上り、一気に橋を渡って屋代島の大島町へ。

橋を渡るとやっぱり非常

に高所、瀬戸内海にちりばめられた島々や船の航跡が美しい。

やっぱり 海をわたる橋のスケールは大きい。久しぶりの海峡橋の感触にうれしくなりました。



由宇温泉

「由宇」っていい名前と思いませんか・・・・・・・・

大島大橋をもどって 大島から半島をまっすぐ北へ山の中に入ってゆくと 15 分ほどで由宇温泉。

清流が流れる赤い橋のたもとにある一軒屋

「ここは 昔から温泉が出たところ 「由宇」の地名も「ゆ」から。

しかし 今はその温泉の地が不明。 由宇温泉はラドンを含む鉱泉・・・・・・・・」と。

山陽道 那珂 IC に近いトンネルの上に掲げられた看板に夢を膨らませていましたが、別段取り立てて言うほどの温泉でない。

ごく 普通の普段着の静かな山郷がとりえ。

まあ 夢を膨らましたままの方が良かったかも・・・・・・・・

でも やっぱり 行って見たかった 名前

「由宇」っていい名前と思いませんか・・・・・・・・

